



第12回  
 さとう つねよし  
**佐藤 常義** さん  
 江間郷土研究会 会長



連載  
**ジャルガルの  
 ほのぼの日記**

第63回  
 モンゴルの英語教育



国際交流員がモンゴルを紹介！

皆さん、サエンバエノー。雨の中にきれいに咲き誇るアジサイの花を毎日見ている飽きることはないですが、青空が恋しくなる今日このごろ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

モンゴルは梅雨の季節がないので、この時期と比べて暑い夏は、どうしてもふるさとが恋しくなります。今頃のモンゴルは気候もだんだん暖かくなり、小学校低学年の子どもたちはもう夏休みに入っています。外で遊ぶ子どもたちの声で街の中は賑やかになっているでしょう。小さい時は夏休みが始まれば田舎のおじいさんのところへ行くのが当たり前で、共働きの両親は安心して仕事をしていただろうと思います。自由時間が多く

なり、たくさん遊べるからと喜んでいましたが、蒸し暑い日本の学校の夏休みが1カ月だけで、みんな頑張っている姿を見ていると、モンゴルの学校の3カ月という長い夏休み期間を見直した方がよいのでは、と思うときもあります。

ウランバートル市内には私立・国立小中高校は259校あり、36万4,488人の生徒が在学しています。そのうちソングノハイルハン区内には35校(国立27校、私立8校)があり、6万4,851人の生徒(小中高校生)が在学、教員および事務職員は3,555人います。モンゴルでは、外国語として英語を小学校5年生から学習するのですが、私立の学校では1年生から英語学習を始めること



中学校の教室。モンゴルでは11歳～14歳の学年が中学生に当たる。

が多いです。子どもに小さいときから英語を学ばせたい保護者は、私立の学校を選択するようです。

そのため、小学5年生から勉強し始める国立校の生徒と、私立校の生徒との間で、中等学校を卒業するときには大きな差が生まれています。また、ウランバートル市内の国立学校でケンブリッジ国際認定校が増えつつあり、5月には新たにソングノハイルハン区の第151番学校が認定校になったそうです。



▲ウランバートル市内国立学校でのケンブリッジ国際認定式典の様子

を提出したことをきっかけに、国民の中で賛否両論が巻き起こっています。私立が国立に関係なく子どもたちに平等の環境を与えていないことが政府に対する反論の主な理由です。モンゴル人としてのアイデンティティ継承のためにも1年生ではなく3年生からが良いのでは、という議論も交わされています。

それでは、バヤルタエ。

協働まちづくり課  
 ☎ 055(948)1412

江間が誇る義時を『手づくり感』で後世へ

「地元こんな偉人がいたとは。まさに江間の誇りだ」と、語る佐藤さん。しかし大河ドラマ『鎌倉殿の13人』が始まるまで、江間地区で生まれ育った佐藤さんたちですら、北条義時(江間小四郎)をほとんど知りませんでした。

時代や義時の魅力に気付いていつたんです。昨年6月、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』ブームの中、江間公園で初めて『義時・江間まつり』を開催したところ、集まった観客はなんと3,000人。「大河ドラマ効果もあつたけど、江間もまだまだ捨てたもんじゃないと感じました」と、当時を振り返り、笑顔を浮かべます。

アプター大河の今年、6月11日に第2回『義時・江間まつり』を開催します。昨年は大河俳優をゲストに迎えましたが、今年はゲストはいません。しかし、佐藤さんらが目指すのは、『手づくり感』のある祭り。「確かに、お金をかければ盛大にできますが、長くは続かない。お金をかけず手作りですら楽しんで、続けられる祭りにしたい」。

郷土の偉人・義時と愛する江間を、末永く盛り上げていくための江間郷土研究会の活動と『義時・江間まつり』の開催。佐藤さんの視線は、すでに第3回、第4回を見据えています。

かんたん手話講座⑳  
**「防災」**

防災の手話は、災害を未然に防ぐ意味で左手のひらを手前に向けて立て、その横で右手3指でひらがなの字を書きます。右手は災害の災の漢字を表現しています。



障がい福祉課  
 ☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

聞こえない私たちが困るのは、見た目ではわかりにくい障がいであることです。災害時などの放送は全く聞こえませんが、最近はスマホを活用した情報保障が普及し以前に比べると便利になりました。